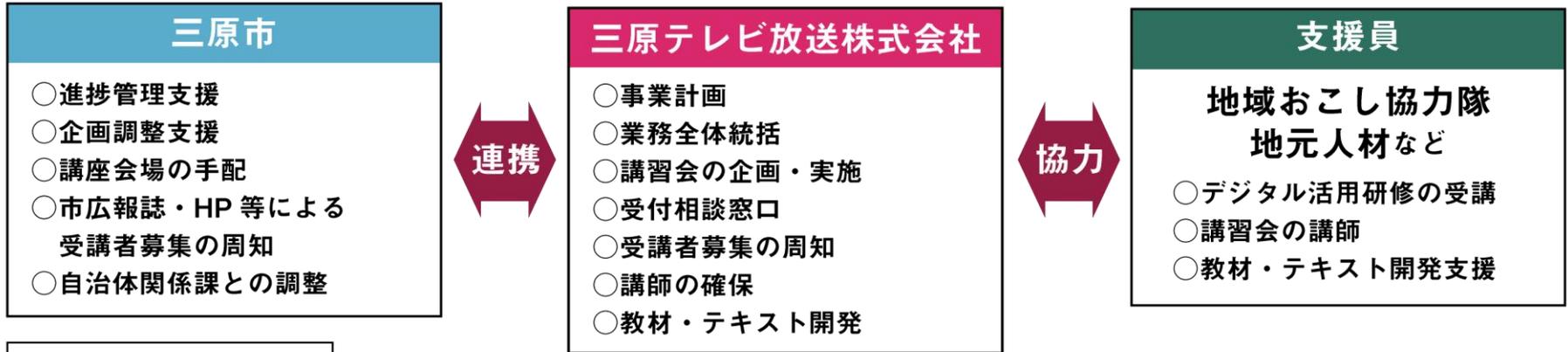


申請者名

三原テレビ放送株式会社

体制図



講習会等の実施計画

	電源の入れ方等	電話のかけ方等	アプリ等	ネットの使い方等	メール等の使い方	地図アプリの使い方	SNSの使い方	オンライン会議	安心・安全
実施コマ数	13	13		13	13	13	13		

	マイナンバーカード	マイナポータル	マイナポイント	e-Tax	オンライン診療	地域オンライン行政
実施コマ数	2					

支援員数	アシスタント数	基本講座：実施コマ総数	応用講座：実施コマ総数
2	4	26	2

事業のポイント

【地元人材の活用】

三原市の市域の大半は中山間地域であり、地域で活躍する地域おこし協力隊や地域支援員を講師・アシスタントとして活用することで、高齢者が馴染みのある人から安心して受講でき、かつ、講習会終了後も地域の中でデジタル活用支援の取組が継続できる。

【募集の告知・情報発信】

ケーブルテレビの番組制作と連携して取り組むこととしており、高齢者等に対する効果的な募集の告知が行えるとともに、講習会の様子を番組で放送することで、講習会に対する関心を高め、新たな参加者の確保につなげていくことができる。

講師を確保・養成・管理

【講師（支援員）】

高齢者等を対象としたスマホ教室（自治体の社会教育事業）の講師を行っている地域おこし協力隊員など地元でデジタル活用支援の取組を既に行っている人材を中心に確保する。

【講師の養成】

支援員となるための研修を受講させることにより、デジタル活用に関する体系的な知識・技術を身につけさせたいうで講習会を開催する。

【講師の管理体制】

講師（支援員）は、地元の人材であり、市の事業やケーブルテレビ事業で日頃から連携している人材が中心のため、講習会に係る情報共有を緊密に行うことができる。LINE など連絡ツールを活用しながら管理体制を構築する。

【講師の確保・養成・管理の工夫】

講師（支援員）となる人材のほか、アシスタントも地元の人材を中心に選定する予定。今回講習会をきっかけに、アシスタントがデジタル活用支援のノウハウを身につけて、将来の講師（支援員）となり、デジタル活用支援の取組が地域の中で継続できるように配慮する。

実施拠点

市内中心部

三原駅前スペースサテラス

中央公民館

郊外・山間部

本郷生涯学習センター

久井コミュニティセンター

和木公民館

島エリア

社会教育施設